

3. ^{やまのうち}山内 ^{しゅうせい}秋生

(1890.10.29 ~ 1965.11.9)

作家、評論家。本名千代吉、のちに秋生(あきお)と改名。明治23年10月29日、現在の南会津郡只見町に生まれる。明治37年3月、小林小学校を卒業。翌2月、上京し、巖谷小波の書生となる。攻玉社中学校第2学年に編入したが、結核を患い卒業目前にして退学。一時帰郷して療養に専念する。回復後、再び上京し、雑誌編集者、新聞記者となり生計をたてる。大正10年から2年間、日本大学文学部の講義を聴講する。また、明治41年より田山花袋に師事し、短編「瞬間」(『文章世界』掲載)などの小説を発表し、後に抒情小品『春の別離』を刊行している。

大正元年には、竹貫佳水、蘆谷蘆村、大井冷光、小野政方らと、日本初の児童文学団体である少年文学研究会を設立した。会の目的は、児童雑誌や読物の向上と新時代の真正少年文学の樹立、そして児童文学の研究創作発表を行うことであった。

以後、『少年世界』¹、『少女世界』²等の児童雑誌に童話を発表して活躍するようになる。作品集『父のふるさと』の表題作は、秋生自身の故郷奥会津を舞台としており、「はしがき」には、「美を求める心」が童話を書く心構えであると述べている。

童話集は他に、『螢のお宮』『とんぼの誕生』『春の野のゆめ』、少女小説集には『月夜のなげき』、空想科学小説『海底探検』、再話物として『イソップものがたり』がある。

大正11年に、蘆谷蘆村の日本童話協会の創立に関与する。大正15(12月に昭和に改元)年には、小川未明、楠山正雄、鹿島鳴秋、蘆谷蘆村、浜田廣介が創立準備をした童話作家協会を発足させる。秋田雨雀、沖野岩

三郎、小野政方、酒井朝彦、渋沢青花、藤沢衛彦、村山篤子が共に参画した錚々たる会であった。戦前の童話作家の拠点であったこの会は、童話文学作家を主体としている点に特色があり、発足時35名の会員は、のちに75名前後となっている。秋生も同協会の出版物に多くの作品を載せている。また、児童文学の研究、評論においても独自の見識を有し、『日本童話選集 第2集』の附録として執筆した「明治大正の童話界」は、近代日本児童文学史の嚆矢として貴重な資料である。会員自選の年刊作品集『日本童話選集』は、出版社を変えながら戦時統制期の協会解消まで、毎年刊行された。

また、改造社版『日本文学講座』に「少年文学研究」を執筆し、児童文学を文学研究の対象とする先駆けとなった。その他、児童文学に関する断片的な解説、評論の類も多い。新潮社版『日本文学大辞典』の児童文学関係の項目立てに参与したり、講談社版『小川未明童話全集』(全12巻)³を滑川道夫と編集をするなどの仕事も手がけた。

秋生は、児童文学者であるとともに、俳人としても知られており、「短歌俳句の作り方」の実作指南も記している。他に、東京書道教育会東京ペン字教育会の理事も務めている。

昭和38年、日本の児童文化に尽力した功績により、日本児童文芸協会から第五回児童文化功労者として表彰された。

後年、郷里の有志により、秋生の児童文学に対する功労を記念する句碑が、只見町大倉のつつじ公園に建立された。その句碑には次のように刻まれている。

故郷よ 山川よ つばめ来るころよ

昭和40年11月8日、秋生はその除幕式のため20年ぶりに帰省し、翌9日、郷里只見町の生家で急逝した。

*1『少年世界』博文館(1895-1933)には、「秋海棠におく露」(12.10)発表が皮切りとなる。

*2『少女世界』博文館(1906-31)には「最後の花」(12.11)、「花に降る雨」(14.4)他発表。

*3『小川未明童話全集』(1950-52)「あとがき」、改版(1958)には「解説」を著している。

【作品介绍】

- ◇「瞬間」『文章世界 第5巻第2号』1910.2
- ◆『春の別離』春水社 1921
- ◆『螢のお宮』精華堂書店 1925
- ◆『月夜のなげき』大興社 1927
- ◇「明治大正の童話界」『日本童話選集2』
童話作家協会編 丸善 1927
- ◇「明治大正の童話界」『日本童話選集2』
(復刻版) 童話作家協会編 大空社 1983
913.8-ニ
- ◇「少年文学研究」『日本文学講座 14』
改造社 1933
- ◆『とんぼの誕生』良国民社 1942
- ◆『父のふるさと』愛育社 1946
- ◆『父のふるさと』愛育社 1946
(自館複製本) 913.8-ヤ
- ◆『春の野のゆめ』紀元社 1948
- ◆『海底探検』昌平社 1948
- ◆『イソップものがたり』昌平社 1948
- ◇「短歌俳句の作り方」『短歌・俳句春暁抄』
文果社 1959

【参考文献】

- ◆『明治大正文学美術人名辞典』
松本龍之助：著 国書刊行会 1926
- ◆『日本文学大辞典 7』新潮社 1951
- ◆『現代児童文学辞典』宝文館 1955
- ◇「山内秋生逝く」
『日本児童文学 第12巻第1号』宣協社
1966.1
- ◆『芽 第2集 山内秋生追悼号』
只見ペンクラブ 1966.3
- ◆『日本近代文学大事典』講談社 1984
- ◆『児童文学事典』東京書籍 1987
- ◇「山内秋生・素描 会津出身の児童文学者」
菅野俊之『総合雑誌ふくしま 第6号』
ふくしま出版委員会 L051-F11-6
- ◇「子供の本にささげた人生 上,下」
大堀高夫 福島民報 1988.3.28,4.4
- ◇「ふくしまの名著 2 父のふるさと」
菅野俊之『文化福島 vol.197』1988.5

LZ706-F4

- ◆『会津文学碑散歩 増補』星勝：著
会津文化財調査研究会 1991

- ◆『日本児童文学大事典』
大阪国際児童文学館 1993

【略年譜】

西暦	和暦	歳	関係事項
1890	明治23	0	10.29南会津郡只見町に生まれる。
1895	明治28	5	小林尋常小学校に入学。
1904	明治37	14	3月小林小学校卒業。
1905	明治38	15	2月上京し、巖谷小波の書生となる。 4月攻玉社中学に編入学。
1907	明治40	17	結核のため攻玉社中学退学。
1909	明治42	19	田山花袋に小説を学ぶ。
1912	大正元	22	少年文学研究会創立。
1921	大正10	31	日本大学文学部の講義を聴講。 『春の別離』刊行。
1922	大正11	32	日本童話協会創立。
1925	大正14	35	『螢のお宮』刊行。
1926	昭和元	36	童話作家協会創立。
1927	昭和2	37	『月夜のなげき』刊行。
1946	昭和21	56	『父のふるさと』刊行。
1948	昭和23	58	『春の野のゆめ』刊行。 『海底探検』刊行。 『イソップ物語』刊行。
1963	昭和38	73	第5回児童文化功労者として表彰される。
1965	昭和40	75	11.8只見町にて句碑建立の除幕式出席。 11.9郷里只見町の生家にて逝去。